



## 「あの日」を忘れず、未来へつなぐ学び

3月11日という日には、毎年特別な思いが胸に去来します。東日本大震災から15年が経とうとする今も、あの日の衝撃、映像、静まり返った空気、胸の奥が締めつけられるような感覚を思い出します。しかし、時の流れとともに記憶が薄れていくことを感じる瞬間もあります。それは人として自然なことではありますが、その一方で、「風化させてはいけない」という気持ちが年々強くなっていくのも事実です。

今朝、子どもたちは朝の会で当時の臨時ニュースや津波の映像、そして気仙沼市立階上中学校の卒業式で読み上げられた梶原君の答辞を視聴しました。画面を見つめる子どもたちの真剣な眼差しは、彼らが知らないはずの出来事を、自分事として受け止めようとする姿勢そのものでした。

「生まれる前の出来事だから関係ない」のではなく、「知らなかったけれど、知ることで向き合おうとする」…そこに確かな成長を感じました。

今の中学生は、震災を知らない世代です。しかし、「知らないからこそ、学ぶことができる世代」でもあります。映像を見たあと、子どもたちが感じた揺れや痛み、問いかけは、学校や地域にとって大切な財産であり、これからの学びへと必ずつながるものと信じます。

3月11日は、決して過去に閉じ込められた日ではありません。私たちが学び続ける限り、未来を守るための「道しるべ」であり続けます。震災を知る大人として、私たちは語り継ぎながら、子どもたちが「命の尊さ」と「助け合いの力」を自分事として捉えられるよう、これからも丁寧に寄り添っていかねばと思います。

## 🌸 サクラサク

本日9時、県立高校一般選抜の合格発表がありました。職員室には朝から緊張した空気が漂っていましたが、受検した16名全員の合格が確認されると同時に、大きな歓声と拍手が職員室に沸き上がりました。

見守り続けてこられたご家族の皆様と日々寄り添って指導してこられた先生方に、この場を借りてお祝い並びに感謝申し上げます。「おめでとうございます。ありがとうございました。」

### 校長室より ~江頭 2:50 さんの心~

震災の直後、日本各地で多くの支援の輪が生まれました。その中の一人に、佐賀県出身のお笑いタレント・江頭 2:50 さんがいます。報道で「福島に支援物資が届いていない」と知った江頭さんは、「**自分にできる形で助けたい**」という思いから、支援物資を2トントラックに積み込み福島県いわき市へ届けたそうです。

このことは大きく報道されることもなく、本人は静かに物資を届けて帰ろうとしたとされていますが、現地での目撃情報からその行動が知られることとなりました。

彼の行動が人々の心を動かした理由は、決して「有名人だから」ではありません。それは、**困っている人のために、誰に言われるでもなく自分から動いた、その姿勢そのものです**。テレビでの派手なパフォーマンスとは対照的に、静かで誠実な行動でした。

災害は「自助(自分を守る力)」と「公助(行政の支援)」だけではすべてを守れません。日常の中にある小さな思いやりや気づき、「自分に何ができるだろう」と考える心が、誰かの命を支える力になります。

今日、学校全体で生まれた静かな1分間、皆さん一人一人の心に、「命を思う温かい灯」として残ることを願っています。